

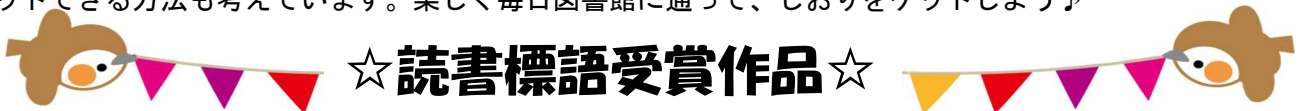


# 図書館だより

2020年6月1日(月)  
伊江小学校図書館

6月1日(月)～6月30日(火)は、読書月間です。今年度の読書月間では、いろいろなジャンルの本と出会い、図書館内の本の分類を意識してもらうことを目的に、毎日読書クイズと読書ビンゴ、教職員による読み聞かせ等を実施します。全校児童が楽しんで積極的に取り組み、本に親しんでもらえたら嬉しいです。

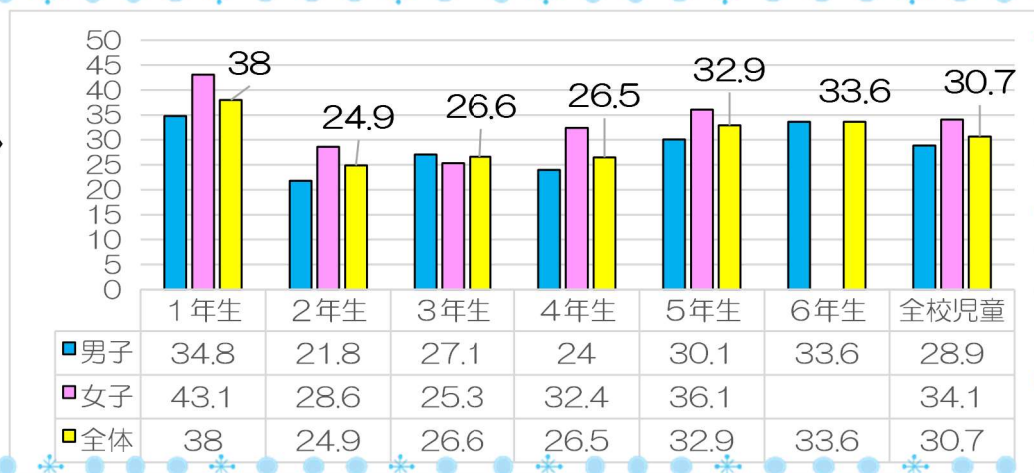
読書月間中は、通常の2冊貸出に加え、読書ビンゴに使用する本1冊を貸し出しし、クイズやビンゴは参加賞として、『なんでも1冊券』全ビンゴや毎日のクイズへの参加で、『鬼滅の刃・伊江小しおり』をご用意しています。また、ゲームが苦手な子ども、図書館で毎日本を借りるだけで名前入りしおりがゲットできる方法も考えています。楽しく毎日図書館に通って、しおりをゲットしよう♪



4～6年生を対象に読書標語を作成しました。その中で受賞作品を紹介します。どの標語も素晴らしい作品ばかりでした。受賞作品は図書室前に掲示しています。

4年生	金賞	小橋川瑛太(えいた)	図書館に 感動探しに 出かけよう
	銀賞	友寄彪(ひょうが)	本開く 色んな世界 おもしろい
	銅賞	平田知友楽(ちゅら)	図書館で 感動話を 探そうね
5年生	金賞	棚原妃南(ひな)	本読んで 作り上げよう 君の世界
	銀賞	大城百愛(もあ)	君だけの 一冊選ぼう 図書館で
	銅賞	名城聖羅(せら)	君の未来 かなえてくれるよ あの本が
	伊江賞	内間志帆(しほ)	図書館へ 本にかこまれ 本の村
6年生	金賞	友寄愛琉(あいる)	本読めば つながりふえる 本仲間
	銀賞	大城広瀬(ひろせ)	いろんな本 未来広がる 頭の中
	銅賞	知念竜(りゅう)	本読んで 色んな知識 わかろうよ
	図書館賞	新城月輝(るあ)	作家は 文を書き 本作る

四月・五月  
平均貸出冊数



伊江村名誉村民の岡本行夫氏が新型コロナウイルスに感染し、4月に死亡しました。

岡本氏は伊江村の3学校図書館に「読書活動に役立ててほしい」と、これまでたくさんの寄贈をしてこられました。今年2月には伊江村を訪れ、「また新しい本を子どもたちへ」と各学校に本を購入するための目録を頂きました。

岡本氏の想いを受け止め、本の購入を行います。ご冥福をお祈りいたします。

## 毎日新聞 令和2年5月

「日本軍の飛行場があつたために大きな戦災をこうむり、それは言葉では表現できないほどです。戦後もまた米軍基地を抱えて、そのご苦労は存じております」

岡本さんはそう語り、地域振興策への希望を直接聞きたいと言った。当時、基地を持つ市町村は諮問機関に要望を出す形になっていた。背景には県南部より北部、本島より離島に顕著な経済格差への配慮もあつたのかもしれない。

島に足を運んだ岡本さんを案内

したある日、日本兵が住民に強制した集団自決の犠牲者が伊江島にもいると語ると、岡本さんは、そうした「証言」はもつと知られていいのでは、と提案してくれたという。

「(関係者は) つらくて話せないのです。」島袋さんの言葉に、岡本さんは黙ってうなずいた。

港の開発など、希望した振興策はすべて実現した。しやくし定規なくせに約束を守らない「役人」とはまるで違う。その「情熱と人情にほれ込んで」名誉村民に迎えた。

以来四世紀半、「友情」は続いた。

今年2月、岡本さんは村の小中学校を回り、寄贈した「岡本文庫」に新しい本を買うための目録を子供たちに手渡した。学校への寄贈は8回、計300万円余り。

子供たちとのカレーパーティーに参加し「本を読むと多くの知識が得られる。将来、伊江島を支える人になってほしい」と語りかけた。

コロナはまた一人、大事な命を奪っていった。

(専門記者)

2020・5・12